

## 学園祭に向けて

～具志川高校花が咲く 笑顔の花を散りばめて 学園祭は最高だ～

学園祭では色彩があふれます。展示内容や舞台の内容もさることながら、出し物を宣伝するポスターなどの様々なデザインや色使いに接することも学園祭の愉しみの一つです。

さて「群青」と呼ばれる色があります。元々日本画で使用される青の一種の名称で、藍銅鈹らんどうこうという鈹物から採り、岩絵具として、また古来より青を表現する顔料として使用されてきました。天然に産する青は一般的に作り出すのが難しいものですが、特に群青は精製が難しく、同じ重さの金と取引されるほどだったとも言われています。

本校の校旗デザインは「黄」で縁取られた校章を「群青」で支えている絵柄です。「黄」は元々高貴な色、すなわち「金」の代用として重宝された色で、これも我が国では植物から抽出した染料が馴染み深いものです。(紅型の黄は主に福木から)

今は私たちの生活の中にこんなにもあふれている色が、いざ人工的に作りだそうとすると最も難しく、手間暇がかかるものだということを意外だと思いませんか。さらに、色は単独では用を成しません。服や陶磁器、絵画や写真等々、何かに付随し定着してこそ、その真価を発揮し、しかも加工の過程でも変化を起こし、価値を増すものなのです。

生徒の皆さんは学園祭の準備で遅くまで学校に残ったり、友人や先生方と企画のために議論をしたりと、今回の学園祭でより良いものを作り上げるために頑張ったことを実感したことでしょう。

祭りは一人ではできません。何かを成すときに、一人でできることには限界があることを、みんなでやればできるという気持ちの高揚が人々を駆り立て、祭りを成功させるのだと思います。

つまり、一人一人の色(個性)は、全体のエネルギー(知恵と努力)と時間(準備)によって化学変化を起こし、革新と伝統の成長を促すのです。

G高の校旗がもつ色彩の意味は、まさに希少な青を集約し群青と成し、努力や知恵を、媒染<sup>\*</sup>によっていかようにも変化する黄で表現したものではないかと考えるのです。

祭りの華やかさは、日常を忘れさせてくれる魔力が備わっています。G高生徒の素敵な魔力“笑顔の花を散りばめて”皆様をお待ちしております。

---

\*1 ばいせん： 染色の過程において、染料を繊維に定着させる工程またその薬品のこと。